

地域再生プロジェクトの実施結果調書

市町村名	上砂川町
------	------

1 地域再生プロジェクト実施結果（プロジェクト全体）

（ 3年計画のうち 3年目）

実施主体	市町村名：上砂川町 民間団体名：頑張るかみすながわサポート会議	計 1 市町村 1 団体
プロジェクト名：	移住定住促進プロジェクト	格差の分野： 社会構造の格差
地域重点プロジェクトとの関連性	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 ◆地域重点プロジェクト名 <input type="checkbox"/> 非該当 「炭鉱（やま）の記憶」で地域づくり	◆主な取組 多様な主体の参画によるまち力・市民力の向上
		○多様な主体が地域づくりに参画するためのシステムを構築
地域の課題及び地域再生プロジェクトの目標	◆ 地域の課題 唯一の基幹産業であった炭鉱の閉山後、高齢化の進行と雇用の喪失による人口減少が進み、町民の購買力が低下している。 ◆ プロジェクトの目標 医療、子育て支援など住みよく安心できる環境を整備し、あらゆる世代に移住定住を働きかけ人口減少に歯止めをかけ、地域の活性化を図る。	
取組の成果	住民等の評価 町内で最も交通量の多い道路沿いに町営住宅に係るPR看板を整備され、町の福祉バスにマグネットシート型の移住を呼びかける広告媒体を活用することにより、町内企業に勤務する町外居住者や上砂川町内通過者、福祉バスの運行先の住民に対し、上砂川町を効果的にPRすることができた。また、子育て関連事業については対象が小学生以下だったものを中学生以下まで拡大し医療費を助成したとともに、昨年度から実施している学童クラブ事業が定着したことにより子供たちの活動の場が広がるなど、十分に満足できる成果を得ることができた。 以上を総合的に勘案すると本町は、移住希望者の移住対象となりつつあり、また町内の若い世代にとっては将来にわたり住み続けたいと思う環境が整いつつある。	
	計画に対する達成度 ・上砂川町移住定住促進PR事業については上砂川町をPRするパンフレットを作成するとともに、頑張るかみすながわサポート会議の協力を得ながら札幌でのイベント会場で移住を呼びかけるチラシを配布した。また、町外から町内に転入した町内企業就労者(5件)や新規移住者(1件)及び住宅を建築・購入したもの(4件)に奨励金を提供した。さらに移住定住促進PR事業として実施した移住定住体験ツアー招待事業については、移住者の獲得には結びつかなかったものの、2名から申し込みがあり上砂川町の魅力を伝えることができた。	

- ・中学生以下医療費助成事業については当初見込み 574 千円に対し、延べ 210 件、529 千円を助成した。
- ・子育て支援事業については年間 24 回の各種事業を実施し、延べ 377 人の親子が参加した。
- ・子供たちの自主性と創造性を育むプログラムについては小学校でパフファミリーの「いきいきわくわく音楽会」、中学校でアカペラグループ「じゃ〜んずΩ」のミニライブを実施し、児童生徒及び保護者等一般合計約 300 人が参加した。
- ・学童クラブ事業については公民館において合計 20 回の事業を実施し、延べ 107 人の子供が参加した。

以上、3 ヶ年の 3 年目については、各種事業が町内外に浸透したことから報奨金制度により昨年度同様住宅取得促され、町内への転入が進むなど、十分満足のできるレベルで達成することができた。

具体的な効果

町営住宅の低家賃を宣伝する広告媒体（主要道路沿い看板）の活用と各種奨励金制度のPRにより町内企業に勤務する町外居住者の転入や住宅取得が進んだ。

札幌でのイベント会場でのチラシ配布や看板整備、町福祉バスに設置したマグネットシート型の広告媒体の活用により移住候補地としての上砂川町の知名度を上げることができた。

さらに中学生以下の医療費助成や子育て、教育にかかわる各種事業を展開することにより若い世代に対し将来に渡り住みやすい環境が整えられた。

交付金支援期間終了時の成果目標に対する現時点での達成状況

- ・人口減少率
H7→H17 Δ18.94% → <目標値> H12→H22 Δ10%
<達成状況>H12→H22 Δ29.72%
- ・高齢化率
H17 37.84% → <目標値> H22 35%
<達成状況>H22 42.08%

プロジェクト推進上の課題・問題点

課題点等

人口減少や高齢化の進行を遅らせるなど一定の効果はあったと考えるが雇用の場の確保が不十分であるために各種子育て支援施策を実施したにもかかわらず、人口の増加や若年層の転入による高齢化率の改善には至っていない。

課題を踏まえた今後の展開

人口減少及び高齢化対策についてはプロジェクトの終了に関わらず上砂川町にとっては重要な課題であることから、今後は地域での雇用対策を新たな課題として取り組んでいく。本プロジェクトにより実施した子育て関連各種事業については住民の満足度が高いことから、移住希望者のニーズを取り込みながら更なるPRに取り組むとともに内容の充実に努めていく。

2 地域再生プロジェクト構成事業

(1) 実績額について

(単位：千円)

No	事業名 実施主体名	実施期間	年次	事業費	財 源 内 訳						交付金 要望額	
					国庫補 助金等	道補助 金 等	市町村補助等		市町村 自己財源	民間等 自己財源		その他
							補助金等	委託費				
1	上砂川町移住定住促進PR事業 町、頑張るかみすなわサポート会議	H20 S H22	全体計画	7,879				1,150	6,729		7,299	
			初年度(H20)	2,364				2,364		2,293		
			2年度目(H21)	3,138			1,150	1,988		3,112		
			3年度目(H22)	2,377				2,377		1,894		
2	移住定住体験ツアー招待事業 町、頑張るかみすなわサポート会議	H20 S H21	全体計画	1,076					1,076		1,044	
			初年度(H20)	1,076				1,076		1,044		
			2年度目(H21)	0				0		0		
			3年度目(H22)	0				0		0		
3	中学生以下医療費助成事業 町	H20 S H22	全体計画	1,356					1,356		1,232	
			初年度(H20)	442				442		429		
			2年度目(H21)	385				385		381		
			3年度目(H22)	529				529		422		
4	子育て支援事業 町	H20 S H22	全体計画	825					825		754	
			初年度(H20)	219				219		213		
			2年度目(H21)	300				300		297		
			3年度目(H22)	306				306		244		
5	子どもたちの自主性と創造性を育むプログラム 町	H20 S H22	全体計画	1,000					1,000		909	
			初年度(H20)	330				330		321		
			2年度目(H21)	280				280		278		
			3年度目(H22)	390				390		310		
6	高規格救急車用AED整備事業 町	H20 S H20	全体計画	1,943					1,943		0	
			初年度(H20)	1,943				1,943		0		
			2年度目(H21)	0				0		0		
			3年度目(H22)	0				0		0		
7	楽童クラブ事業 町	H20 S H22	全体計画	406					406		362	
			初年度(H20)	0				0		0		
			2年度目(H21)	243				243		232		
			3年度目(H22)	163				163		130		
計	事業数[7]		全体計画	14,485				1,150	13,335		11,600	
			初年度(H20)	6,374				6,374		4,300		
			2年度目(H21)	4,346				1,150	3,196		4,300	
			3年度目(H22)	3,765				3,765		3,000		

注 1 プロジェクトを構成する全事業の実績について記載すること。

2 平成21年度以前の地域再生チャレンジ交付金で採択された地域再生プロジェクトは、計画期間に応じて「年次」最下欄に3年度目を追記すること。

- 3 「事業費」、「財源内訳」及び「交付金要望額」欄は実績額又は予定額を記載すること。
 4 その他記載に当たっては、別記第2号様式に準じること。

(2) 実施内容について

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
1	上砂川町移住定住促進PR事業	首都圏で移住相談会を開催するとともに、移住希望者への情報提供手段として既存のホームページを整備する。また、町外に住む町内企業就労者や新規移住者に対し、転入に係る一部経費として、奨励金を出すとともに、町内外を問わず住宅の新築・購入したのに対して同様に奨励金を出す制度を整備し、移住者の獲得や定住の促進に取り組む。	初年度 (H20)	福井(8月)東京(9月)、大阪(10月)、において移住説明会を開催し合計220名に上砂川町の概要について説明するとともにチラシや町勢要覧等を配布し、PR活動に取り組んだ。	PR先の移住希望者に対して上砂川町の良さをPRするとともに町の知名度を上げることができた。一方で具体的な移住者獲得に直接結びつかなかった。	説明会の実施地区の見直しやPR手段について効果的な方法を再検討するなど、内容の見直しを図りながら継続する。
			2年度目 (H21)	9月に東京で移住相談会を開催したとともに、札幌でのイベント会場でのチラシ配布、移住希望者への情報提供手段としてホームページを整備した。また、報奨金制度の整備により町外から町内に転入した町内企業就労者や新規移住者、住宅を新築・購入したのに対して奨励金を提供する制度を整備するとともに、短期体験移住施設を整備し、移住者獲得に向け積極的なPRに取り組んだ。	移住相談会やホームページの整備により移住希望者上砂川町の良さをPRするとともに町の知名度を上げることができた。報奨金制度の整備により転入者の獲得(2件)のほか、近年に無い住宅の建築・取得(5件)が促された。また、直接的な成果は見られなかったものの、体験移住施設に関わる問い合わせが数件あるなど、移住希望者の上砂川町への関心を高めることができた。	今までは道内だけでなく、東京、大阪等広域に渡る住民を事業を展開してきたが道内を中心に移住にかかる事業を展開していく。
			3年度目 (H22)	上砂川町をPRするパンフレットを作成するとともに、札幌でのイベント会場で移住を呼びかけるチラシを配布し多くの人に移住を呼びかけた。また、町外から町内に転入した町内企業就労者や新規移住者及び住宅を建築・購入したものに奨励金を提供した。さらに移住定住促進PR事業として実施した移住定住体験ツアー招待事業については、移住者の獲得には結びつかなかったものの、2名から申し込みがあり上砂川町の魅力を伝えた。	広告媒体の活用により移住希望者上砂川町の良さをPRするとともに町の知名度を上げることができた。報奨金制度により5件が転入したほか、4件が住宅の建築・取得した。また、平成23年度の体験移住申し込みがあるなど、移住希望者の上砂川町への関心を高めることができた	プロジェクト事業として実施してきた取り組みを継続していく。

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
2	移住定住体験ツアー招待事業	参加者の参加経費の一部を町が負担する移住定住体験ツアーを実施する。	初年度 (H20)	上砂川町の魅力を体験してもらうために移住体験ツアーを開催し10月に福井から4名、2月に東京、大阪からの5組10名の合計14名を無料招待し、住民との交流会やそば打ち体験など各種プログラムを体験してもらった。	移住に不安を感じる移住希望者に対し上砂川町を理解する機会を提供することができた。また、2次的な効果としてふるさと納税の申し入れが数件あった。一方で移住者獲得に直接結びつかなかった。	参加者がある程度移住を具体的に検討している人に限定するために有料ツアー助成として継続実施する。
			2年度目 (H21)	ツアー参加費の町全額負担から一人当たり3万円の町定額負担に変更し、参加者を募集した。	制度を変更したことにより参加希望者が無くなった。	本事業をPR事業に組み入れ、ツアー参加費の一部町負担を継続するとともに積極的なPRに取り組む。
			3年度目 (H22)	上砂川町移住定住促進PR事業の一部として実施		
3	中学生以下医療費助成事業	小学生以下の医療費について町内の医療機関に限り、自己負担分を助成する。	初年度 (H20)	小学生以下の医療費について町内の医療機関に限り、自己負担分を助成した。(延べ195件、442千円)	小学生以下の医療費を助成し、自己負担をなくすことにより、安心して子育てに取り組める環境を整え、住民が安心して住み続けられる環境が提供できた。	住民が安心して住み続けられる環境が提供でき、住民の満足度が高いことから継続する。
			2年度目 (H21)	小学生以下の医療費について町内の医療機関に限り、自己負担分を助成した。(延べ186件、385千円)	小学生以下の医療費を助成し、自己負担をなくすことにより、安心して子育てに取り組める環境を整え、住民が安心して住み続けられる環境が提供できた。	住民が安心して住み続けられる環境が提供でき、住民の満足度が高いことから継続する。
			3年度目 (H22)	中学生以下の医療費(対象を小学生以下から中学生以下に拡充)について町内の医療機関に限り、自己負担分を助成した。(延べ210件、528千円)	中学生以下の医療費を助成し、自己負担をなくすことにより、安心して子育てに取り組める環境を整え、住民が安心して住み続けられる環境が提供できた。	住民が安心して住み続けられる環境が提供でき、住民の満足度が高いことから継続する。
4	子育て支援事業	保育園と公民館を活用することにより育児相談や親子で遊べる場を提供する。	初年度 (H20)	家庭で子育てする孤立しがちな親子のために保育園を利用して育児相談や親子で遊べる場を提供した。(年間12回実施、延べ246名参加)	延べ246人の保護者と子供が参加し、保護者や子供の交流の場が確保された。一方で参加者が固定されてきた。	交流の場として効果的であったので今後は保育園だけでなく、公民館も活用して内容の充実を図り、継続する。
			2年度目 (H21)	家庭で子育てする孤立しがちな親子のために保育園を利用して育児相談や親子で遊べる場を提供した。(年間16回実施、延べ217名参加)	新型インフルエンザの流行等により延べ参加者数は減少したが、新規の親子が加わるなど同事業が保護者や子供の交流の場として定着してきた。	交流の場として効果的であったので今後も継続する。
			3年度目 (H22)	家庭で子育てする孤立しがちな親子のために保育園を利用して育児相談や親子で遊べる場を提供した。(年間24回実施、延べ377名参加)	新規の親子が加わるなど同事業が保護者や子供の交流の場として完全に定着した。	交流の場として効果的であったので今後も継続する。

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
5	子どもたちの自主性と創造性を育むプログラム	子どもたちの企画により芸術鑑賞会を実施。	初年度 (H20)	子どもたちの企画により芸術鑑賞会を実施した。 小学校 9月10日民族歌舞団こぶし座 鑑賞者数児童180名、保護者20名 中学校 11月7日「ハート音楽院」アンサンブル楽団 鑑賞者数生徒90名、一般10人	児童生徒の要望を踏まえ、町内や近隣市町で触れられない演劇や音楽に直接触れる機会を確保することにより、充実した教育プログラムを提供することができた。	普段触れることのできない演劇や音楽など充実した教育プログラムに対する児童生徒・保護者の満足度が高いことから継続する。
			2年度目 (H21)	子どもたちの企画により芸術鑑賞会を実施した。 小学校 9月1日劇団風の子北海道 演劇「とべ！夢ひこうき」 鑑賞者数児童180名 中学校 9月4日ダンス・ボーカルグループ「B☆Luck」ミニライブ 鑑賞者数生徒90名	児童生徒の要望を踏まえ、町内や近隣市町で触れられない演劇や音楽に直接触れる機会を確保することにより、充実した教育プログラムを提供することができた。	普段触れることのできない演劇や音楽など充実した教育プログラムに対する児童生徒・保護者の満足度が高いことから継続する。
			3年度目 (H22)	子どもたちの企画により芸術鑑賞会を実施した。 小学校 9月6日パフファミリー 「いきいきわくわく音楽会」 鑑賞者数児童180名、一般10名 中学校 9月1日アカペラグループ「じゃ〜んずΩ」ミニライブ 鑑賞者数生徒90名、一般20名	児童生徒の要望を踏まえ、町内や近隣市町で触れられない演劇や音楽に直接触れる機会を確保することにより、充実した教育プログラムを提供することができた。	普段触れることのできない演劇や音楽など充実した教育プログラムに対する児童生徒・保護者の満足度が高いことから継続する。
6	高規格救急車用 AED 整備事業	高規格救急車搭載の AED を更新する。	初年度 (H20)	高規格救急車搭載の AED を更新した。	高規格救急車搭載の AED を更新したことにより、町民の緊急時に確実に対応できる環境が整えられ、住民が安心して住み続けられる環境が提供できた。	住民が安心して住み続けられる環境が整えられたことから完了とする。
			2年度目 (H21)			
			3年度目 (H22)			
7	楽童クラブ事業	公民館を放課後の児童生	初年度 (H20)			

No	事業名	計画内容	年次	実施状況	効果・課題	今後の展開
		徒が勉強や遊びに集う場として整備し、各種プログラムを実施する。	2年度目 (H21)	公民館を放課後の児童生徒が勉強や遊びに集う場として整備し、各種プログラムを実施した。	児童生徒を対象に公民館を会場として工作教室など各種プログラムを実施することにより子供たちが放課後有意義に過ごすことができる環境を提供することができた。	放課後に公民館で実施される各種プログラムに対する児童生徒・保護者の満足度が高いことから継続する。
			3年度目 (H22)	公民館を放課後の児童生徒が勉強や遊びに集う場として整備し、各種プログラムを実施した。	児童生徒を対象に公民館を会場として工作教室など各種プログラムを実施することにより子供たちが放課後有意義に過ごすことができる環境を提供することができた。	放課後に公民館で実施される各種プログラムに対する児童生徒・保護者の満足度が高いことから継続する。

- 注 1 (1)に記載した番号に対応する事業について、プロジェクトの期間を通じて、実施状況及び効果や課題を踏まえた今後の事業展開を記載すること。
- 2 平成21年度以前の地域再生チャレンジ交付金で採択された地域再生プロジェクトは、計画期間に応じて「年次」最下欄に3年度目を追記すること。